

《 コラム 》 Vol.48

タイの大洪水（その1）

2011年12月、バンコクの北側に位置するアユタヤに住んでおりました。その年は11月頃から1ヶ月近く雨がしとしと降り続けていました。通常ですとスコールのように雨が降ってピタッと止むのですが、なぜかこの年は日本の梅雨のようにしとしと雨が続けていました。

その雨のせいでしょうか、アユタヤのさらに北部から洪水が始まりました。洪水はタイの北側から、南の海側のバンコクへ広がっていくとの情報が流れま

12月中旬頃、「近所の下水からみずが上がってきたらしい・・・」友人から情報が入ります。

「アユタヤもそろそろ洪水になるかも・・・」うわさが広がってきます。でも、あくまでも噂です。

12月下旬だったでしょうか、知人のタイ人からアドバイスが入ります。

「念のため、洪水の心配がない東側の工場近くに引っ越したらどうだろう？」工場（指サックメーカー）はアユタヤよりも東側に位置しており、洪水が起こり難そうな場所にありました。念のため、その日に工場近くのアパートに仮に引越ししました。

そして翌日・・・なんと昨日まで住んでいたアユタヤのアパートは、膝くらいまで水位が上がる床上浸水！

間一髪で洪水から非難が出来ました。（危なかったゼィ！）

もしそのまま住んでいたら・・・

おそらく2ヶ月以上はそのまま待機状態になっていたかも知れません。

引っ越した後は、洪水が収まるまで、

そのまま約2ヶ月間工場近くのアパートに仮住いとなりました。

洪水の被害は尋常ではありませんでした。

アユタヤの工業団地では、3m以上の浸水、1階がまるまる水の中という状態です。

工場内の部品や生産機器がすべて水没！

もうどうしようもありません。

車メーカーの敷地では、出荷前の新車がプカプカと水面に浮かんでおります。被害の大きさが伺えます。

この大洪水、起こるのは50年に一度と言われております。

被害総額は1567億パーツ（4,000億円弱）と想定されているみたいです。世界銀行の推計では、自然災害による経済損失額の大きさでは、東日本大震災、阪神・淡路大震災、ハリケーン・カトリーナに次ぐ史上4位だとか。

私自身は難を逃れましたが、約2か月間は帰国も出来ず、工場近くでの田舎暮らしを余儀なくされました。

何日か経って、水位の上昇が落ち着いたころ、車が辛うじて通れる幹線道路を、車で移動してみました。幹線道路の両側はめちゃくちゃ大きい「湖」状態。農作物もすべて壊滅、なすすべがありません。

洪水の被害にあった多くの工場では、既に手の打ちようがありませんでした。が、使用可能な水没した部品や機械を水中から引き上げる作業が始まります。そこで国中のプロのスキューバダイバーたちに招集の声が掛かります。出来る事は国中の全員が力を合わせて共同作業！（素晴らしい！）

このとき、水中の機器類を引き上げる作業に参加したプロのダイバーが、今までに経験したことがない恐ろしい体験をしたそうです。

それは・・・

水中で作業しているときに、どこからかライフル銃の音が響き渡ります。

「ワニが出たぞー！！！」大きな声で皆叫んでおります！

水中のダイバーたちは慌てて水中から這い上がります。

洪水でワニ園のワニたちも被害にあい、

「自由が手に入ったゼィ！」と思ったかどうか分かりませんが、餌を求めて工業団地をさ迷っていたそうです。（恐ろしか〜）

話が長くなりますので、今回はこの辺で。